



タイベック®製  
遮光・遮熱ネット

# 「タキイホワイトTW」を 夏まきの露地ハウレンソウ 栽培で活用！

(編集部)

タキイオリジナルの遮光・遮熱用ネット「タキイホワイトTW」は、主にハウスの外張り・内張り・サイド張り  
で作物の発芽、育苗などにご愛用いた  
だいておりますが、今回夏まきの露地  
ハウレンソウ栽培でトンネル被覆とし  
て利用することで、高温障害や立枯病  
の発生などを少なく抑えたハウレンソ  
ウを収穫できました。今回はその試験  
内容を紹介します。

## 「タキイホワイトTW」の特長

「タキイホワイトTW」は通常の遮  
光・遮熱資材に比べて、乱反射、拡散  
光に優れます。光はやさしく透すため、  
暗くて作物が軟弱徒長する心配があり  
ません。遮熱効果で作物は快適に育ち、  
トマトでは成り疲れを防止することが  
できます。また、ハウスでは作業する  
人も明るく涼しいと好評です。

この商品の主となる素材は、太陽光  
を90%以上乱反射するデュポンタイベ  
ックをネットに編み込んでおり、アザ  
ミウマ類の飛行を困難にさせて侵入の  
抑制が期待できます。遮光率によって  
「タキイホワイトTW65」(遮光率60〜  
65%)、「タキイホワイトTW45」(同40  
〜45%)、「タキイホワイトTW30」(同  
30〜35%)を揃えており、広い用途で  
活用できる資材となっています。

## 試験概要と 「タキイホワイトTW」 の効果

試験場所は一般平坦地の京都府久世  
郡久御山町で、先立って行われた8月  
上旬播種のハウレンソウのハウス雨よ  
け栽培(「タキイホワイトTW65」をト  
ンネル被覆)の結果がよかったことを  
受け、引き続き8月28日播種の露地栽  
培(「タキイホワイトTW」をトンネル  
被覆)で行われました。品種は早晩性  
が分かるよう「オーライ」「ニューア  
ーナR4」「おかめ」「他社M」「次  
郎丸」を用い、1mに1条ずつ播種。  
暴風雨予防に支柱を斜向いに立て、そ  
こに「タキイホワイトTW65」「タキ  
イホワイトTW45」「タキイホワイト  
TW30」をそれぞれトンネル被覆し、  
パッカー(シヤクトリムシ)で固定し  
ました。対照区は無被覆です。

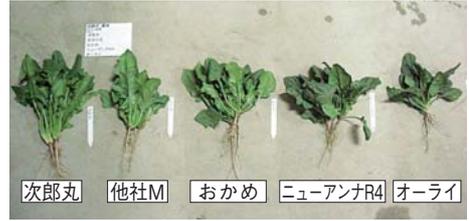
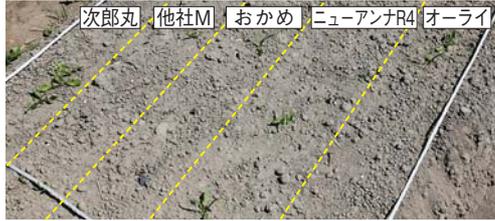
生育経過は、「タキイホワイトTW」  
を被覆した区で発芽の揃いがよく、高  
温・多湿で懸念される立枯病の発生率  
も非常に低くなりました。播種後2週  
間目の様子は写真1の通りです。無被  
覆区に比べると、「タキイホワイトT  
W」の区のハウレンソウは収穫まで順  
調な生育を見せ、株張りのよいものを

● 播種日：8月28日

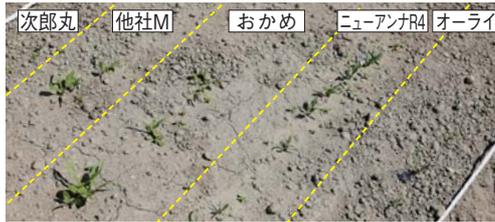
写真1

写真2

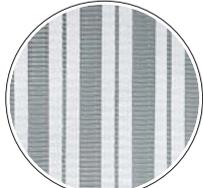
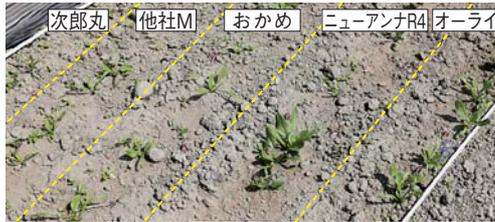
無被覆区



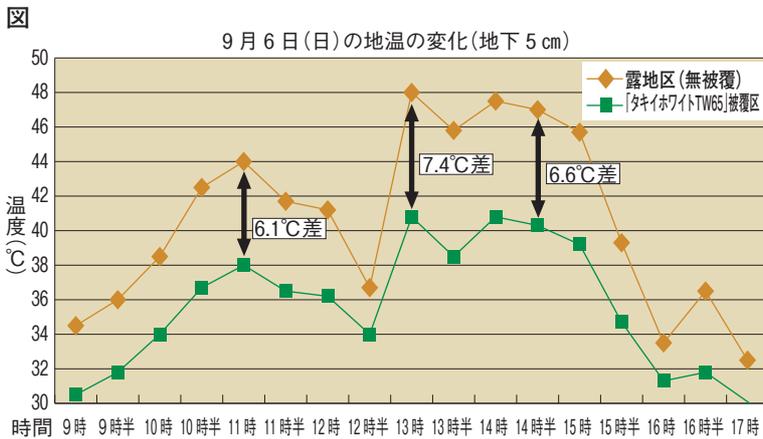
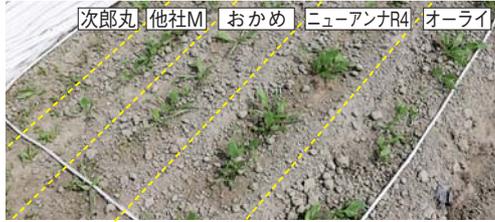
「タキイホワイトTW30」区



「タキイホワイトTW45」区



「タキイホワイトTW65」区



↑ 8月28日播種では一部「涼感ホワイト20」を使用して同様に栽培。遮光率が低いので時期によって使い分ける。

「タキイホワイトTW」は、高温期のプロッコリーヤマト、花きでの発芽、育苗にも優れた効果を発揮します。今後、さらなる温暖化の影響から考えても、「タキイホワイトTW」は安定生産に欠かせない資材として活用場面の広がりが期待できます。

● ● ● ● ●  
**「タキイホワイトTW」  
 を使って安定生産を!**  
 ● ● ● ● ●

につながるポイントとなります。

このように、夏場のハウレンソウ栽培で「タキイホワイトTW65」「タキイホワイトTW45」「タキイホワイトTW30」を使い分けるには、播種時期が8月上中旬であれば「タキイホワイトTW65」、今回の8月下旬では「タキイホワイト45」が効果的であったことから、暑さが和らぐにつれて遮光率の低いものを利用することが安定生産につながるポイントとなります。

収穫できました(写真2)。特に、この作型においては「タキイホワイトTW45」がハウレンソウの生育に効果が高く、品種は夏まき栽培全般において「ニューアンナR4」が好結果となりました。「タキイホワイトTW65」被覆区と露地区(無被覆)の地温差は図のようになります。